# 第2の世界～The Second World～

水無月　鷹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
第２の世界～Ｔｈｅ　Ｓｅｃｏｎｄ　Ｗｏｒｌｄ～

【Ｎコード】
Ｎ６２９４Ｗ

【作者名】
水無月　鷹

【あらすじ】
急成長した企業とその『商品』があった。
名称はそのまま
（株）バーチャルリアリティ『第２の世界～Ｔｈｅ　Ｓｅｃｏｎｄ　Ｗｏｒｌｄ～』
もともと対人対モンスター混合ＶＲＭＭＯＲＰＧのゲームプログラムだったものだが、何時の間にか本当に第２の世界になりつつあるといわけである
それが本当に第２になる少し前の本当にＶＲＭＭＯＲＰＧだった頃

～なった後のお話
ＶＲＭＭＯＲＰＧだから運営のせいにしてなんでもありｗなんていう展開になると思われなくも無い。

（処女作＆ａｍｐ；勢いで書いたものですのでｇｄｇｄになる可能性が高いので注意して下さい
主人公がセコイ＋チートかもしれません
誤字脱字の指摘があればバシバシ直しますので、躊躇せず指摘して下さい）
※これはものすごくよく似た地球じゃないところ又はパラレルワールドです。
あくまでもフィクションです

※※現在筆者の私情により更新が停止しいますが、２月終わり迄に絶対投稿すると約束してでの停止ですので皆様暖かい目と心で今暫くお待ち下さい。２０１１／１２／９　水無月　鷹

## #1　始まりの始まり（前書き）

な書き忘れましたが２０１１年ごろの話です～

## #1　始まりの始まり

俺、秋葉月（あきはづき）　慶（けい）一人称はもちろん「俺」だ。
プロフィールは
年齢：２８
身長：１６８
体重：６０
顔立ち：所謂純日本人かつ顔の良さ（イケメンさ）は自他ともに認める中の中
職業：魔法剣士
こんな感じ
職業について多大なるツッコミが予想されるので弁明すると、
俺は（株）バーチャルリアリティ『第２の世界』管理部　部長職である。具体的に言うと『第２の世界』で一番偉い人。偉いよ？俺。
なんせ地球の全人口のおよそ１／３はやっている（と言われている）のだからね
今や６３億人ぐらい入るからね
なんでこうなったかって？
それは６年前に遡ることになる

２００５年秋～秋葉月２２歳大学４年～
卒業論文をとっとと終わらせた俺。
偉い！頑張ったって。
これで近日公開ＶＲＭＭＯＲＰＧ『Ｓｅｃｏｎｄ　Ｗｏｒｌｄ～第２の世界～』に間に合う～
いやぁ、フルフェイスヘルメット型特殊ＶＲ装置「ＶＲＥｘｐｅｒ

ｉｅｎｃｅ」通称ＶＲＸを開発しＶＲシステムを大きく向上させた開発元（株）バーチャルリアリティから出るＶＲＭＭＯＲＰＧだっていうんだからネトゲゲーマーはもちろんのこと世界中から注目されているのは当たり前だよね？

※「ＶＲＥｘｐｅｒｉｅｎｃｅ」通称ＶＲＸとは今まで視覚、聴覚だけだったゴーグル型より少し大きいフルフェイスヘルメット型であたかもそこにいる様な感覚になる。どちらかと言うとシミュレーテッドリアリティの考え方に近いものである。これは従来の目に見せるのでは無く脳神経に外部から微弱電力で作用させているらしい

（人体には無害なのが実証済み）

尚セットで「ＲｅａｌｉｔｙＲｅｃｏｇｎｉｔｉｏｎＣａｍｅｒａ」というカメラが捉えた画像をゲームのアバターパラメーター（容姿）にしてくれる（かなり正確）もの。現代のカメラのついている顔認識技術の発展系。背景なんかも大体できる。

最新パッチで筋肉の盛り具合なんかもＶＲＸとセットで認識できる。

（開発部より）アバターはこれでキャラを作る

説明長ぇ

閑話休題（それはともかく）

んでもって秋の終わり１１月ごろだったかな？βテスト版参加者募集に応募して見事βテスト版プレイ開始！

それが物語の始まりであった

## #1　始まりの始まり（後書き）

だから勢いと（ｒｙで始めたってば
勢いと（ｒｙだから適当なところで力尽きたｗ
次回はこの先βテスト版プレイからです〜ぅ
真面目にやりますよ次回は

## #2　βテスト～神ｓｈｉｎｇｅｔｕ降臨まで（前書き）

昨日のと一つにまとめようと思ってはいたんですが何となく2つに分けました

## #2　βテスト～神ｓｈｉｎｇｅｔｕ降臨まで

２００５年１１月初め～秋葉月２２歳～
ようやく始まったβテスト。
あくまでもテストなのでＬｖは２５Ｌｖまで（製品は１００Ｌｖまで）
２ヶ月の期間限定だから大晦日ごろにはβテスト終了。
βテストのキャラは通貨と装備品・アイテムの一部が引き継げることになっている。
その代わりテストでは強力なものが出ないので苦労するけど。。。
それまでに２５Ｌｖまであげてアイテムを大量に確保しなくては！

２００５年１２月２８日～秋葉月２２歳～
告知通りβテスト終了
こっそり引き継げないＬｖやＬｖの高いアイテムを自分のパソコンの中にデータとしてかくしておいたぜｗ

２００６年３月初め～秋葉月２２歳～
『第２の世界』一般公開開始
ここでβテストで使っていたＩＤとパスワードでログイン
おおお！きれいさっぱり高Ｌｖ装備・アイテムが消えている！
このキャラクターにパソコンの中に入れておいたβテストの最終セーブデータを上書き
このゲームかなりセキュリティが厳しくて上書きするのに苦労したよ
そしてみんなＬｖ１の中１人だけＬｖ２５からのスタートを切った
このままだと運営にばれると思って変わり身にキャラを１体作るというところまで気が回っている俺

とりあえずクランやサークルグループなどには属さず一人で体モンスターで狩り開始
職業は#1で書いたように魔法剣士
さあて『第2の世界』本編を楽しむとするか

※余談ではあるがこの『Second World～第2の世界～』ずいぶんと最初から拡張性が高い
名前負けしてないなと思ってみたりする
まず最初にサーバーがかなりの数用意してありそのサーバー一つ一つに国が設けられていてその中に州や県があって・・・と現実世界に非常に酷似している。
また職業も最初から商人として遊ぶとか武器屋・防具屋にして遊ぶ等対人、体モンスターのみのVRMMORPGとはちょっと違っている。（もちろんダンジョンに赴く剣士など戦闘職業もある）
もちろんNPCの武器屋、防具屋、露店などもある
閑話休題

まずは最初からLv25にしたキャラshingetu通称「月」
こいつが俺のメインキャラ
で隠れ蓑のakiha通称『秋』Lv1
akihaはもちろん自分の名字から取った
shingetuというのは俺がよく使うIDネーム
このゲームのIDは漢字やひらがな・カタカナ対応（さすが日本企業）だけどやっぱりshinngetuがしっくりくる。うん
あれ？話がそれてるな
というわけでまず月でモンスター狩り。。。
どうせVRXシステムで思うように動かせるんだから初級ダンジョンを飛ばしていきなり中級ダンジョンから

炎系魔法を一発起動できるようにして中級ダンジョン『氷晶の洞窟』へ

『氷晶の洞窟』というのは名前から想像できるように氷系の洞窟型ダンジョン推奨Ｌｖ１５以上

地下へ進んで行くとモンスターが強くなるよくある洞窟ダンジョンだ。

中級といっても初級に毛が生えた程度なのでＬｖ２５にもなればたいしたことはない。

「さて狩れるだけ狩るか」

オープン初日こんな所にはもちろん人っ子ひとりいない

まずはプレイヤーに最初に配られるＩＤカードでちゃんとＬｖ２５であることを確認する

名前：ｓｈｉｎｇｅｔｕ

Ｌｖ：２５

ＨＰ：７５

ＭＰ：１００

ＰＡ：４１

ＰＤ：３６

ＳＡ：５９

ＳＤ：４０

経験値：３３５６２４５５（後３３５４６４０９でレベルアップ）

状態：健康

職業：魔法剣士＋２

武器：クリスタルソード

防具

頭：魔法使いのハット

胴：魔法使いのローブ

腰：〃

腕：なし

脚：ブーツ

Ｐは物理Ａが攻撃Ｄが防御Ｓが特殊
それの組み合わせでおおよそのステータスが決まるＨＰとＭＰの説明はいらないよね？
経験値の計算は前の経験値かける２の仕組み
たとえば３Ｌｖから４Ｌｖに上がるには３の時点で８なのでもう８つまり合計で１６必要になる
それがどんどん増えると２５Ｌｖでは最低でも合計３３５５４４３２　必要と馬鹿でかくなってしまう
説明はここまでにしておこう

なぜ武器だけあんなに強そうなのかというとにかく殺される前に殺すスタイルだったから武器にばっか力が入って防具は初期装備というわけ。情けないことに防具まで手が回らなかったのだ
そんなこんなで初洞窟へ

下へ行く階段前で早速モンスターに遭遇（エンカウント）。
一発起動の炎初級魔法「ファイヤーショット」を３発で焼けてくれた
もちろん素材は剥ぎ取り
あいては雑魚モンスターなので対して上級じゃない素材でしたが…
そんなのを続けた

～秋葉月２５歳～
そんなことを３年ほどやっていただろうか
ｓｈｉｎｎｇｅｔｕは

Ｌｖ：１００
ＨＰ：９９９９９
ＭＰ：９９９９９
ＰＡ：９９９９９
ＰＤ：９９９９９
ＳＡ：９９９９９
ＳＤ：９９９９９
経験値：１２６７６５０６００２２８２３０００００００００００００００００００（後０でレベルアップ）
職業：魔法剣士＋１０
状態：健康
スキル：？？？
武器：Ｄａｒｋｎｅｓｓ　Ｓｐｅｌｌ　Ｓｗｏｒｄ＋１０
防具
頭：闇黒龍のヘッドギア＋１０
胴：闇黒龍の特殊鎧（胴）＋１０
腰：闇黒龍の特殊鎧（腰）＋１０
腕：闇黒龍のグローブ＋１０
脚：闇黒龍のブーツ＋１０

ってな感じ
闇黒龍というのはこのゲームのラスボス（アップデートがなければ）

に当たるモンスター
通常ならＬｖ７０～８０で多人数ＰＴ（パーティー）組んでも厳しい（俺以外勝った記録なし）といわれているモンスター。
ほかの人はＬｖ６０～７０ぐらいで足踏み中
そんな中ひとりＬｖ１００になってしまったものだから１人だけ最上級ダンジョンにいる
だれにも見つからないのでＰＫ（プレーヤーキル）は仕掛けて繰る輩もいないし、
本当にいるの？なんていうチャットまで出てきている。
ちなみに闇黒龍シリーズの防具は防御をカンスト、武器（Ｄａｒｋｎｅｓｓ　Ｓｐｅｌｌ　Ｓｗｏｒｄ）は攻撃をカンストしてくれる武器。ただし１００Ｌｖ以外装着不可能という致命的な欠点がある。

「もう行き止まり暇になったのでａｋｉｈａｄｕｋｉの育成するかー」

そんなときに運営から非公式メールが来た
なんだろう？
まさかバレたか？

## #2　βテスト～神ｓｈｉｎｇｅｔｕ降臨まで（後書き）

かなりはしょった希ガス・・・

気のせいです→

この後ｓｈｉｎｇｅｔｕのバックアップをもとにａｋｉｈａｄｕｋｉの育成をするかと…

## #3　部長誕生（前書き）

やっと回想が終わるかな？

## #3　部長誕生

２００６年４月１５日
「いつもプレイありがとうございます
運営の（株）バーチャルリアリティです
このたびはＬｖ１００達成おめでとうございます
つきましては４／２０日までに一度（株）バーチャルリアリティまでお越しください
素敵なプレゼントを差し上げます」
よし行こうか。
バーチャルリアリティも本社をここ『第２の世界』に置いているからすぐ行けるだろう

（株）バーチャルリアリティ
「ここかぁ何くれるんだろーなー？」
と思って受付に入るとすぐに応接室に通してくれた
３分ほど待つとなんと社長兼研究員の玉本　仮想氏が来てくれた
「このたびはＬｖ１００達成おめでとうございます」
素直にお礼を言うべきであろう
「ありがとうございます」
「君へのプレゼントの件なのだがね」
早速来たなワクワク
「是非ともこの『第２の世界』の管理部門の部長になってほしいのだ」
えっ？
「私がですか？」

「そうだとも」
「だめかね？」
「そんなことはないんですが私でいいのでしょうか？」
「この世界唯一のＬｖ１００様が何を仰るか。もっともこの世界を知っているだろう？」
それはもちろんだ一番知っている自負もある
「つまり私がここを管理するのですか？」
「そうとも」
「わかりました。お引き受けいたします」
「ありがとう。それではふみこんだはなしなのだが・・・」
長かったので要約すると給料の話と雇用体系の話と今後の『第２の世界』の話だ
とくに最後が重要で今後「第２の世界」は今後本当に第２の世界として機能させたいということだった
とりあえずサーバーの拡張とゲーム内仮想通貨コイン（表示単位ｃ）を円とトレードできるようにしたりすることを提案してその日は帰ログアウトした。
今日のことをまとめると俺は（株）バーチャルリアリティ第２の世界管理部門部長（明日から）として正式雇用されることになった。

次の日
朝起きたら早速ログインし、ｓｈｉｎｇｅｔｕをみる
役職という欄が追加され管理　部長と書いてある。
おおおおおすげぇ早えええ
さて今日の朝のトピックスは～？
ん？
'ｃと円の交換が可能に？！ｃでリアル世界で買い物ができる？！'
となっていた
だから社長早えええええええええええええ

提案した内容が簡単に開始されてしまっているー！
やっぱりもうそれなりにでかかったんだなこのゲーム
驚きを隠せなかったが今ｓｈｉｎｇｅｔｕで動く気にもならないので
ａｋａｈａｄｕｋｉでゲームを開始することにした

っとまあこんな感じで今部長になった
そうするとｓｈｉｎｇｅｔｕが動かせないのでってことで１から育てたのがこれ
名前：ａｋａｈａｄｕｋｉ
Ｌｖ：４５
ＨＰ：１２３７８
ＭＰ：３５４８９
ＰＡ：２１７６５
ＰＤ：２０９６５
ＳＡ：３５６４７
ＳＤ：２８９７５
経験値：３５１８４３７２０８８８３２（後３５１８４３７２０８８８３２でレベルアップ）
状態：健康
職業：魔法剣士＋４
武器：ハイエンドクリスタルソード
防具
頭：ハイエンドクリスタルヘッド
胴：ハイエンドクリスタルアーマー（胴）
腰：ハイエンドクリスタルアーマー（腰）
腕：ハイエンドクリスタルハンド
脚ハイエンドクリスタルレッグ
（クリスタルセット）

クリスタルとは魔法を通しやすくロスの少ない魔法と使う者にとっては装備しやすい素材
中級～上級まで十分に使える
ハイエンドクリスタルとはクリスタル装備の最上級品。錬成のスキル＆レベルともに高くないと防具武器屋でも扱えない
防御と攻撃の高さが異常なのは装備のおかげ（ｓｈｉｎｇｅｔｕのお下がりだが）というしかない

さてこいつの育成のためまあ集会所でも行くかー

## #3　部長誕生（後書き）

次回からようやくａｋｉｈａｄｕｋｉで動き出します
秋がここまで成長したのは月のお陰なのはいうまでもあるまいな？

## ＃４　秋の現状（前書き）

クラン＞サークル＞グループの順で大きい
グループが１０人以下サークルが３０人以下クランはそれ以上
第２位のクランが出て来ますよー

## ＃４　秋の現状

いやぁ以外とばれないもんだね
ｓｈｉｎｇｅｔｕがＬｖ１００になる前からちょこちょこ秋で集会場（酒場）に来ていたけど誰もｓｈｉｎｇｅｔｕとは疑わないみたいまあｓｈｉｎｇｅｔｕの装備は黒が基調なのに対して秋は白だしネームも全然違うしね
でもやっぱりハイエンドクリスタルセット装備のＬｖ４５なんてそうそういないから目立つわぁ～

さて今回は経験値稼ぎたいし適当なダンジョンに潜るか、と思ったけけれどただ潜るよりも依頼をこなした方が効率がいいと思うんだ

そんな訳で今俺は公式依頼掲示板に来ている
公式依頼っていうのは運営からのミッション（クエストとも言う）や公式な手続きを踏んで出される素材回収依頼が出ている
対義語に非公式依頼があってこれは露店のおっさんから〇〇を～個売ってくれ（とって来てくれ）なんて言うのがそれに当たる（たま～にクランの仲間や親しいプレイヤーからも助けてくれってチャットで言われるのも広義では当てはまる）
公式の方が安全・安心できるし何より数が多い（回収するものの数も）。
とりあえずＬｖ５０相当のクエストをっとのぞこうしたら誰かに見つかった
「おーい」
だれ？
「おーいー」
ああ
現在勢力２位のクラン「スターナイトソード」ですねー

あの剣士主体で質・量ともに高いところですねー
ってなんで？
「どうも」
うわっ隊長さん（Ｌｖ８５）だよ。リーダーだよ！
でもどっかで見たことあｒ・・・・
ああこの間ＰＴ組んだ強い人かぁ
ってええ？！
俺品定めされてたってことかクラン誘われたしなぁ
なんでもＬｖ４５でありながらハイエンドクリスタルシリーズ揃えてるのが珍しかったらしいよ
ハイエンドクリスタルシリーズ＝６０Ｌｖでやっと揃う＞しかし俺はＬｖ４５
やっぱり珍しいわ
と言っても裏に月がいるのはバラす気ないしなぁ
「先日はどうも～」
「今からクエストですか？」
「まあ成長させようかと」
「しかし見ているところが普通と違う・・・」
あっＬｖ４０台なのにＬｖ５０のとこ見てるの気づいてたのか
「サブですか？」
「ええまあサブっちゃサブだしサブじゃないっちゃサブじゃないんですが」
サブって言えばいいのにこのバカ何ヤッテルンダヨ
「今回も一緒にどうです？Ｌｖ６０クエストで」
ん～悪くは無いなかな
「また一緒にいいんですか？じゃあお願いします」
「こちらこそ。クエストは・・・'雷神(ライジン)複数匹の討伐'で今２０：２０回った頃ですし２０：３０広場集合で」
おいこら待てぇえええええええそれＬｖ６０のラスボスじゃねえかぁあああああ

１０分で仕度しなってか

## ＃４　秋の現状（後書き）

広場と言うのはダンジョンに行く前に必ず通るところで広場の奥にダンジョンへの転送装置があります
基本的にハチ公前みたいな集合場所です
隊長さん（スラッシェルさん（♂））は真面目ないい人＋トップレベルの剣士でもあります

## #5　スターナイトソード（前書き）

まだ出でこないバトルシーンと雷神ｗ
もっと展開を早くできるようにしたいなぁ
魔法の属性付加について

魔法には火、風、雷、土、水の基本５系統と無系統の６つが有ります。
そして火系統は火と爆発に、風系統は風と飛行に、雷系統は雷と光に、土系統は土と自然（植物含む）に、水系統は水と氷にそれぞれ分かれ分かれ計１１系統になります。
基本５系統は火、風、雷、土、水では左側が右側に対して有利で水は火に有利です
他に有利不利はありません。
無系統は全ての魔法に対して有利不利は有りません（一部を除く）

また治療などの魔法は全系統で行えますが、多少差があるみたいです

## #5　スターナイトソード

「２０：３０：０５かギリギリ（でアウト）だな」
うわきっびしーたった5秒の遅れで！？
それ信号待ちしてただけだから信号のつなぎが悪かっただけだから！（ないけど）

俺と隊長さんだけかと思っていたらＳＮＳ（スターナイトソード）のみなさん（見たところ１０人ほど）も一緒なんですな
ちらっと見てみるとみなさん６０～７０Ｌｖですねー
だから俺４５Ｌｖだってば（泣
「うんじゃ全員そろったことだしそろそろ行きますかー」
何の躊躇いも無く転送装置に突っ込んでいく隊長さん
まじでＬｖ４５ノオレガライジンタオシニイクンデスカ？
あーあーあー皆いちゃったよぉ
うわーん（転送装置に飛び込み）
一瞬視界が歪んだ後目の前にはおっかない山とそこに続く道が見える草原に立っているワタクシ
ここに来たのはいつ以来だろうか？
うーん月が６０Ｌｖぐらいの時だったなぁ？
あの時は誰もいなかったけど今は結構賑わっているみたい。
それにしてもクランが多いような・・・？まさか、ね？
気にしたら負けだと思って目を逸らすことにする俺。
「それじゃあ今回の討伐目的雷神（ライジン）がいるあの山へ行くとしますか」
何でそんなに呑気なの～！
って考えてみりゃ俺がただ単にＬｖ低いだけか（何回言ってるんだろう）
なんてことを考えている内にズンズンと進んで行く隊長以下１２人（ＳＮＳメンバーの参加者総数）と最後尾に続く俺

結構皆さんいい装備っすねぇ～鉱物系も動物系もいいもの持っていらっしゃるようでさすがって感じ？

雑魚モンスターの電気系モンスターがいくつか出て来たのをバッサリ斬り捨てる時点で実力も結構ありそう何ですけどー

雑魚と言っても４０～５０Ｌｖだし

俺とＬｖは変んねえし・・・

やっぱりなんか怖いわ～Ｌｖが

なんてことを考えつつ途中参戦しつつ進んで行ったら気が付くと雷神がいるステージの一つ前にいたりする

あれぇ？やっぱりクラン多いなぁ？

まさか？！

## #5　スターナイトソード（後書き）

武器防具には鉱物系と動物系があります
モンスターから剥ぎ取って作ると動物系
鉱物（ハイエンドクリスタルとか）はそのまんま鉱物系です
鉱物系は基礎防御攻撃が高めですが属性付加しずらいです
動物系はこの真逆ですので剣士は鉱物系が多い設定です
また魔法士は動物系が多い傾向にあります

## #6　イベントモンスター（前書き）

多少話が進めばいいかと

## #6　イベントモンスター

騙されたーーーーーー
やっぱりそうだったか！それは１０分前に遡る

どうもクランの数だけでなく人も多い
クランだけでも3位のＭａｇｉｃ　Ｕｎｉｏｎ（職業：魔法主体ＳＮＳと同盟有り）とか４位のｔｉｍｅ　ｓｈｉｎｏｂｉ（職業：忍者主体のクラン）とか。
５位の・・・・・・あれは・・・デストロイヤー日本支部？
このクランは理由無きＰＫ（プレイヤーキル）が多くて運営でも問題になっているクラン
特に職業に拘らず質より量で相手をリンチの様に攻撃すると言う手法で５位を保っている
「隊長さんまさかとは思いますけど嵌めましたね？」
「ばれちゃったかぁ。そうなんだよね～今日此処でイベントあるんだよね」
「退路も塞がれたしヨロシクね☆」
「てめぇ☆つけるようなキャラじゃねえだろ隊長！」

ーイベントとは週一で何処かのある時間に出る超強力モンスターの討伐のこと此処ではいくらＰＫしてもお咎めは無いー

他のメンバーも同じように「☆キラッ」とかやりやがって
そうこうしている内に真ん中に閃光が走った次の瞬間神雷神がそこにいた今回のイベントモンスター様だ
そんなにアクティブじゃなかったクランが次々に攻撃を開始する。
「うわぉ」
真横を弾丸とクナイと手裏剣と基本５系統のショットが飛んで行った

「・・・」
「端っこで観戦してｔ」
「突っ込めって」
え？ちょっと！危うくさっきと同じようなもんに当たるところだった危ない危ない
「ーじゃなくて！押すの止めて！赤信号渡ってる途中にトラックに突っ込まれるより怖い！実際そんなことになったことは無いけど！」
流れ弾だけでもかなり危ない何せ皆６０Ｌｖぐらいはあったりするから
「流れ弾回避し辛いから一旦端へ避難してもー」
幸いフィールドは広いので端っこならーーー
「って角の方（も）地面が火吹いてるよ！じゃなくてそこも危険だって」ーー端っこすら危険地帯
仕方ない殺るか
「チッ」舌打ちを一つした後一気に５系統のショット×３６計１８０発分を詠唱する前方１８０。に対して１。刻みで１発づつ指向性を持たせて一気に魔力をつぎ込む
「フグッ」「どこから！？」
悲鳴をあげる敵プレイヤー１８０発７０人程に全弾命中内３０人程の運の悪かったプレイヤーが倒れた
この人数といいＬｖの多様性といい何かがおかしい
「隊長少し下がらしてください」
返事を聞かずに下がり多機能端末を開く
公式通知用掲示板→イベント→今週のイベント
・・・。ふむこのイベントで神雷神を倒した時に生き残っていたプレイヤー全員に伝説級の武器がもらえるんだそうなしかも自由な形で（剣とか銃と言う意味で）。
だったら張り切るわな。
それでいつもなら参戦しないような低Ｌｖプレイヤーまで来てるのか。倒れることへの恐怖がないのか？

このゲームＨＰが０になり倒れると１Ｌｖダウンそして下がったＬｖの最初まで経験値が下がる。更にアイテムの一部と所持金（家や銀行にあるのを除いて）を失う。対人対モンスターどちらも同じだ。まあ対人だと倒した方がアイテムと所持金ランダムで少し貰えるんだけど。
実際一回パーになってみると結構辛いものがある
何せ稼がなきゃいけない経験値が多すぎるからな

さてそろそろ上がって突撃かな？
まず無系統の身体強化（時間制）を掛けるそしたら剣に対して斬れ易くなる風系統魔法（時間制）シャープネスアップを掛ける
どちらも時間制で切れたらヤバイのがネックなのにこれは持久戦になりそうと言う低Ｌｖ魔法士泣かせ。魔法剣士だけど。ＭＰＬｖに対して多けど。
後は気合いを入れて
「いっくぜぇえええええ！！」

## #6　イベントモンスター（後書き）

これは3～4回くらいで収めたい
先は執筆中・・・・・
Now being written・・・・・

## #7　あくまでも戦闘中（前書き）

停滞中
なんかもっさり。。。

## #7　あくまでも戦闘中

「いっくぜぇえええええ！！」
と威勢のいい声を張り上げて突っ込む俺。
誰も来ない味方。
急停止する俺。
振り返る俺。
トボトボ味方のところに戻る俺。
此処までにおよそ３０秒
「なんで誰も動かないの？」
「今行くと流れ弾に当たるから」
そりゃそうだけどさ
「衝撃の事実！ＳＮＳって誰も動かないクランだっｔ――――」
スパァーン
快音が俺の頭から――――
「せめて戦略といえ――――――！」
ＳＮＳの元気そうなツッコミ役女性プレイヤーナツキさん（Ｌｖ６８）だった
「痛ってえ」
「だってクランの評判に関わりそうだったから・・・」
余る程入会希望来ておいてよく言うわ

「それはともかく今行くのは良く無いですねぇ」っと隊長さん
「あの～身体強化とかかけちゃったんですけど～」
「知らないわよ！勝手にかけたんでしょうが！大体まだ時間に余裕があるじゃない！」
確かに勝手に掛けてますしかなり余裕を待たせてますけどね。結構鋭いっすね。
「とりあえず突撃のタイミングは？」

「少し落ち着いてから。今行くと1体2どころか1体3にも4にも
もしかすると更に多くなるかもしれないから」
1人だったら突っ込んでたななんて思っていると例の8点セット（
クナイ、手裏剣、銃弾、基本5系統ショット）が――――
またかよ！好きだな！そのセット！
ヒョイっと躱した地点でまた8点セット――――
危ないって！本当に！
コレも躱すと次は来なかった

出来るだけ攻撃は躱す出来なければ剣で弾く
そうして流れ弾を回避して生き残る作戦で相手らの出方を見ている
と次第に戦火が弱まって来た
そろそろＬｖが低いのからＭＰ切れや体力（スタミナの方）切れが
出て来たみたい
それでも６０ｌｖとか７０Ｌｖはまだまだイケイケっぽいけど。。。

・・・
「なんか・・・すげー膠着状態じゃね？」
かれこれ１０分程ほとんど飛び道具も飛んで無いし接近戦も無い。
神雷神なんて放置されている（神雷神は暴れているけど）
「・・・チャンス？」
「かもね？」
返しまで疑問系。
「だったら――――」
風系統遅延発動魔法を剣に掛けて近めの集団に向って横回転を掛け
て地面を這うように投げる
びっくりする集団。
真ん中で起きる竜巻。

「「「ふわあああああああああ！！」」」
軽い悲鳴をあげている集団に向って一気に走る
スライディングして真ん中まで一気に入り剣を取り手近なヤツから斬って行く
「うぐっ！」「なんだこいつ！？「「いつから此処に！？」
最初のが斬られた手近なヤツその後が（多分）仲間の悲鳴
慈悲深い（？）俺は仲間も一緒に動揺している隙に斬る。そのまま対応出来ずに一個中隊程の集団が全滅。
やっぱり8点セットが来たので離脱。

「お前は何をした？」と隊長
「えっと、まず剣に時限信管代わりに風系統の「竜巻強化版（トルネード）」を遅延発動で掛けて投げる。それが発動したのを見届けた後スライディングで剣をとって動揺している間に切刻みました」
「「「・・・」」」！？（・―・；？
「なんであの人数を1人で殺れるんだ？」
ああそれは月で鍛えた――――
っとコレはトップシークレット
「いや剣士職なら振れるか「うちのクランに来ないか？副リーダーの席を用意しよう」今は決められないっす。それと話に入って来ないよーに」
戦場でヘッドハンティングされた・・・
まあ秋ならいいかもしれないけど
「それは生きて帰ってからで――――」
さっきので目をつけられたらしい
銃弾が真横を通り抜け目の前で爆発が起きる。
一斉に回避行動に移るＳＮＳ
普通に早い
集団戦法でデストロイヤーが攻めてくる！
どうやら職業：兵士が多いようだ。

兵士の基本武器は銃器。
素早く大量に直線的な攻撃ができる。つまり射線に入らなければ安心。入ったら蜂の巣と言う単純な職業＆武器。
しかしデストロイヤーは集団戦法を得意とする。それは横一直線に射線があることを意味する。
つまり逃げ場なんてありがたい物は無い。
知覚・身体強化がある俺はまだいいが純粋な剣しである隊長さん等などは剣で弾くのも結構辛い
そうなると必然的に射線を潰すしかない
此処からＳＮＳの反撃が始まる

## #7　あくまでも戦闘中（後書き）

後1話でこれ終わりまっせ

## #8　決戦？（前書き）

随分あっさりもっさりしてます

## #8　決戦？

「「「いっくぜぇえええええ！！」」」
前話と違いこちらはＳＮＳの掛け声。
こうじゃなくっちゃね！
それぞれ最前線にいるデストロイヤー兵士を斬って行く
「うぐっ！」
「うげっ！」
「――！」
やっぱり４０Ｌｖ程度だとそんなに強くは無いが、
ダダダダダ――――
すぐ後ろに機銃部隊の機銃掃射がある事で難易度が６０Ｌｖ相手よりも難しくなっている
「――――っ！」
隊長さんの左腕に被弾したらしいが見てるとこっちまでやられそうなので今は無視。その程度（深めのかすり傷）なら死にはしないだろう。
そんなことを考えつつ目の前の敵兵を斬って行く。
まず胴体に一太刀。動きが鈍くなったところで首を斬る。
そしたらすぐに回避行動を取る
何しろ鉄の嵐ってのを体験してる真っ最中だからねとっとと離脱し
無いとこっちの首が飛ぶってーの

――――ズパァン
「？！」
近くの地面から土煙が上がっている
狙撃手もいたのか！
「居るのならば叩くまでの事！」
知覚強化で見直して・・・・見つけた。

そこから半径１００ｍを範囲指定し雷系統魔法「落雷（ライトニングドロップ）」を発動させる
これは指定範囲内に大量の落雷を隙間なく落として相手を攻撃する魔法。動いている対象や大体の位置しか分かっていない対象には絶大な効果があるのだが魔力消費が多いのが難点。
ただ半径１００ｍなら俺にとって対した量にはならないだろう。
落雷（ライトニングドロップ）が当たっていたところは見事に全て（狙撃手含み）真っ黒に焦げていた
・・・やり過ぎたかな？
一応痛みとか疲労のフィードバック（実際には影響無し）があるからな・・・
でも仕掛けたのはあっち。そしてお咎めなし。気にしなーい
「怨むなら運営をー！（って俺運営に名を連ねてるのか）」

未だに続く機銃掃射。
それを必死によけて相手に近づく
右左右右左上しゃがみ上左右左上右左左右上右右弾弾右上左斬
何しろ近づくのが大前提の剣士職。
近づかなければ話にならん
魔法でもいけなくは無いがこの弾幕に撃ち落とされるだろう。
それを力づくで押し切れるとは思えない。
敵本陣（デストロイヤー）中心で暴れる１２＋１名
傍観中（対新雷神）のＭａｇｉｃ　Ｕｎｉｏｎとｔｉｍｅ　ｓｈｉｎｏｂｉ。
神雷神はまだまだ元気であるがデストロイヤーの前線にいた４０ｌｖ～５０Ｌｖがほぼ全て制圧されつつある
そうすると指令の役割をしていた６０Ｌｖぐらいにヤツが数人（１

０人に満たない）出てくる。やはり職業：兵士ばかりと言うかだけ…しかもそこにいるデストロイヤーの敵は傷を負っているも弾幕の中を生き延びそして制圧したＳＮＳ（＋１）。
そして兵士＜剣士の接近戦。１０人以下＜１２＋１。デストロイヤーの平均Ｌｖ＜ＳＮＳの平均Ｌｖ。勝てる要素のないデストロイヤー。そして勝利か勝利か死以外離脱不可のフィールド。
音もなく対デストロイヤーが終わった瞬間だった。
忘れかけてた神雷神は残りＨＰ１／１０程。ありがとうｔｉｍｅｓｈｉｎｏｂｉ達。
何時の間にかｔｉｍｅ　ｓｈｉｎｏｂｉとＭａｇｉｃ　Ｕｎｉｏｎは不可侵条約を結んでおりそこで争いは起きていない。
そのため元々同盟のＳＮＳが集まると残りＨＰが１／１０程度の神雷神を倒すのに１０分と掛からなかった。

全員が思い思いの伝説級武器を手に入れたところで帰還用転送装置が現れ無事に帰還し、後で正式にいろいろあるらしく酒場の会場１つを貸切予約していた。すぐに宴会直行だな・・・。おれも呼ばれてるけど行くべきかなぁ？

## #8　決戦？（後書き）

友人から頼まれてコメディー短編を書くかも。
全く本編と関係なかったですね。

## #9　宴会場（前書き）

宴会になった模様です

## ＃9　宴会場

無理やり連れて来られる羽目になりました――――
やっぱり２０分戻ってね

～戦闘終了後帰還直後～
「～～～・・・と言うわけでｔｉｍｅ　ｓｈｉｎｏｂｉさんと俺らの同盟で打ち上げを集会所併設の酒場の宴会場３予約してあるからお前も来いよな！」
すっげー筋肉タイプのガルドさん（♂）に背中をバンバン叩かれながら言われた。うう・・痛い痛いよ。
「それ、俺はどこにも属してないので辞退させていただこうかと「来るよね？」今行かないって言ったばっかだったからね！？それと割り込みやめてもらえますかね！隊長さん！」
「連れねぇじゃねかよ！んなこたぁ言わずに来いって！」
「あーもー行く気しないですって！大体僕部外者じゃ無いですか。」
「そーゆうことはいいから。何なら今回は奢っちゃうよ？」
「金　銭　的　に　は　大　丈　夫　で　す！　」
「じゃあ奢ってもら「やっぱり厳しいかも」どっちなのよ！」
「ほら時間時間」
上から俺、ガルド、俺、隊長、俺、ナツキ、隊長の順である。
そんなこんなでギャーギャーしてるといつの間のやらわらわらと囲まれて連れて行かれた。
結構策士だなこの野郎共。

それ見事に祭り上げるように宴会場に連れて行かれたわけです。
んで持って防具も外さず宴会場にいる俺。

周りも同じような格好だけど。

やっぱり言われたんだよね

「「うちにはいりませんか？」」

ＭＵ（Ｍａｇｉｃ　Ｕｎｉｏｎ）にまで言われた。

そりゃそうだ。

何しろ遅延魔法を剣に掛けたりするような奴って見られてると思うからな

あの瞬間（剣に魔法を掛けて投げた）も見ていただろうし、あんな使い方すんのは俺だけだろうって言う自負がある。それ程までに珍しいってこと。

そもそもこのゲーム魔法剣士が少ない。

理由は至って簡単。「中途半端だから」

そう、真っ向勝負をすると魔法では魔法士に負ける、剣技では剣士に負ける。ほら中途半端でしょ？

でも実は遠距離は魔法近距離は剣技の使い分けができるし、今回の様なアイデア次第ではどちらにも勝るようなめんどくさい職業なのだ。

中途半端で面倒臭くて使い辛い。好んで選びはしないだろうが１００Ｌｖまで行くと少なくとも剣士・魔法士の１００Ｌｖよりは強い。たぶん。

「いやえっとそのなんていいますかえっとその・・・・・」

言い訳ってこういう時に限って出来ないんだなぁ

素直に―アレ（月）がいるから無理とは言えないし。それを隠す為のこいつだし。

「あの～今決め切らないので保留にしましてまた後日じゃ駄目ですか？」

「それで構わない。いい返事を期待しているよ☆」

だから隊長あんなに☆は似合わないってば！

それから飲んだ。食った現実世界にかんけーねーとか言って飲んだ。
確かに二日酔いはないし酔った気分にもなれるけどロウアウト忘れてるよ皆…

## ＃9　宴会場（後書き）

この後ようやく月が出てきますよ？

# #10　入会

宴会があった次の日
バーチャルリアリティ社社長室にて
「・・・と言うわけなのですが入っておくべきでしょか？秋の方で」
「確かに理由もなく上位クランからのお誘いを断るのはまずいがなぁ。以下にも怪しいし…」
「そうなんですが任務のほうに支障が出てもなどと考えると入るのは厳しいものになるかと思われます」
「だよなぁ」
・・・・・・・どうするのこれ？
「よし君にもう一個プレゼント。取説読んで必ず装備しておくように」
「こんなもの開発してたんですか…」

後日
ＳＮＳ集合事務所
カランカラン。どっちかっていうと喫茶店か。
「たいちょー」
「おや？ａｋｉｈａｄｕｋｉ君か。で返事は？」
「入会することにしました。なので手続きのほうを――――」
ガラガラガッシャーン
「何やってんの？」
見事に机ごとひっくり変えて周囲が大惨事になっている。
擬音語にしやすいような音出てるし
「いやぁ~ てっきり断られるんじゃないかとかもしかしたらＭＵのほうに流れちゃうんじゃないかとか考えてたからさぁ」
まあ結構悩みましたけどね。結局はいるけど
「というわけでこれからよろしくお願いします」

と言いつつ周りを見渡すと皆６０Ｌｖには達している
この場で一番低いのでも６０Ｌｖ。くそっ明らかに一人Ｌｖ低い。
「はい、書類に不備なし。書類審査通過。無事入会完了。おめでとー」
ちゃらーん
＝＝クラン専用チャットチャンネルが解放されました＝＝
無事にシステムでも完了したらしい。なので俺は――――
「それと今日はこの後用事がありますので僕はこれで。」
カランカラン
に得たかったのもあるが今日は人が少ないところでアレを試さなきゃいけないんでね

沈黙の森１Ｆ
さてあまりにもよくわからないダンジョンで有名な沈黙の森にやってまいりましたー。Ｆ１と言う簡単な筈の階にも関わらず誰も居ませんー。ぱちぱちー
では機能もらったクイックプレイヤーチェンジシステムを使ってみたいと思いまーす。
これは登録してあるプレイヤーに一瞬で変われる代物。昨日貰ったアレ
今ログインしているのをロウアウトさせ登録プレイヤーでログインっていうの一瞬でやるっていうこと
じゃあ起動させまーす。
カァッ
――――――っ！目が痛い！ぐらいの光！
シュゥゥ
おおー！変ってる！月に変ってるよう！
久々に月でログインしたので町に行って買いだしでもすっかってそんな事をしたら大問題なのでとりあえず月・秋共同宅へ帰還。

そしてもう一度あの装置を使って秋に戻る。
おおおー！便利ー！
スバラシー！ニホンノギジュツリョクデスネー。
さて使用チェックも終わったし買い物兼ぶらぶら散歩にでも行きますか。
まずは、ＮＰＣ商店でＨＰ・ＭＰ回復用ポーションを大量購入。
次にＮＰＣ武器屋でメイン武器の切れ味を上げる。刃こぼれ結構してたから意外と高くついた。この後喫茶店でゆっくりする金がー（泣）
ううう。
しょうがないのでぶらぶらしているとズパァァァンという綺麗に響く発射音が郊外から小さく聞こえている。自衛隊のＶＲ訓練日か。
リアルだからできるＶＲ訓練ｂｙ自衛隊。
弾薬の消費が現実ではなく安全に訓練できるんでんで自衛隊などの各国軍隊等治安部隊で訓練に使っているのだ。

閑話休題（それはよいとして）

いゃ～平和だなぁ～。さてプレイヤー商店街でも通って帰る（ログアウト）としますか

## #11　商店街（フィールド）

プレイヤー商店街にやってまいりましたー。
ぱちぱちー
やっぱりＮＰＣ商店より物が良いけど値段もいいなぁ。ハイエンドクリスタルソードの修理で全額ｃで支払った俺にそんなの買えるわけがないじゃん？
うーん特に欲しい物はないけどハイエンドクリスタルの原石（大）とか結構綺麗だしー。欲しい。ビンボーが悪いんだー！

シュトト。ズダダ。
おっと危ねぇ。俺今ハイエンドクリスタル（大）見てただけよ？
クナイ、手裏剣に５．５６　ｘ　４５　ｍｍ　ＮＡＴＯ弾っと。戦闘ですね分かります。此処でって事は喧嘩ですね分かります。じゃあ止めなきゃですね。ついでに証拠回収しておきますね。
押しちょうどいいから月で－－－－
ピカァァ
ふう変更成功！
じゃあ飛び込みますかー
そーれよっこいしょ。
取り敢えず最前線にいる２人の手を持ってそれぞれ別の方向に投げ飛ばす。
「うお！？」
「！？」
着地はちゃんと出来たみたいだね。
取り敢えず身分は明かさない。だって面白くなくなるから。
片方はおよそ５人程の職業：忍者。
もう一方は１０～１５人の職業：兵士。
あれこんなに前にもあった様な・・・まいっか。

「さて諸君此処は商店街。特別喧嘩及び戦闘行為禁止区域に指定されているところなんだが？何をやっているのかな？」
「うるせぇ！こいつらが悪いんだ！」
「やかましい！あとからきたのはお前らだろう！」
どうやらでかい緋鉱石（ひこうせき）ー鉱石自体が火属性な特殊な鉱石ーを争ってここまで発展したらしい。売ってた商人は逃げたあと見たいだけど。
商人ナイス。逃げて正解だよ。
ふむどうすべきか。。。。。
見過ごすわけにはいかないけど面倒臭いしなぁ。。。。
「とっと失せろ馬鹿野郎！」
「さっきからやかましいわ！」
今度は三点セット（クナイ、手裏剣、銃弾）がバンバン飛んで来る。
その度に土系統防御魔法「非積極的防御壁（パッシブシールド）」を発動させるのも面倒臭い。ＭＰ消費するし。

うん。喧嘩はやっぱり商店街（フィールド）じゃなくて戦闘区域（ダンジョン）でやるべきだよ！ってことでＭＰ任せに「雷撃矢（サンダーアロー）」を下向きに上空から出来るだけ大量且つ最大威力で落っことす。勿論中心の自分には当たらないように。（人はこれを「光の流星群」と呼ぶらしいよ。これ豆知識ね。）
誰も注意していない遥彼方上空に何千何万で足りるかどうかの雷撃（サンダー）矢（アロー）の魔方陣が下向きに出現している。
「巻き添え喰らいたくない奴はとっとと逃げろよー！どうなっても自己責任だからなー！」
１分後ほとんどのプレイヤーは逃げるかログアウトするかで残っているのは興味本位（アホ）で残った奴と戦闘中で掛け声に気がつかなかった忍者と兵士。
よし。これで思いっきり撃てる！
「Ｉｔ' ｓ ｓｈｏｗ ｔｉｍｅ。」
上空から一気に落ちてくる電撃矢（サンダーアロー）。
「「「「「「「「うわぁぁぁぁぁ！！」」」」」」」」

今頃逃てももう遅い。今から落下して地面に衝突するまでの時間で逃げ切れる距離は射程距離内だっつーの。

ズドドドドドドドドド。

地震だったら震度7レベルの地響きと揺れ。

そして目を瞑ってても目が痛い位の光（を発して落ちてきた電撃矢）。5分後光、地震、地響きが収まるとそこはまさに焦土という表現がピッタリなぐらいに焦土だった。生存者は勿論俺一名。

「戦闘行為は戦闘可能区域でやりましょーねー。じゃないと今回みたいにまた死亡しますよー。」

周りにさらさらと消えていく（ゲームの仕様で死亡した者は自宅などでペナルティを受けて再開するため死亡したものは粒子が散ったようなエフェクトになる。結構綺麗）死体を見つつなんとなーく叫んでみる俺。

まあ意味はないんだけどね。

「久々の戦闘で楽しかったしそろそろ家に帰るか」

誰もいない商店街を抜け帰(ログアウト)った。

## #１２　事後通達してみました

しゃちょーから絞られましたー。
うぅぅ喧嘩止めてやったのにー！
さていつも道理２０分程遡ろうか。

「お前何やってんの？アレはやり過ぎでしょ。」
いきなりメールで呼び出されてバーチャル本社（ゲーム内）の社長室で社長に言われた一言。開口一番これ。
「すみません。調子乗って光の流星群まで使いました。というかそれだけで殲滅しました。」
「・・・」
「・・・」
「・・・相手が可哀想だぞ・・・。」
この社長の前でも光の流星群を実演したことがあるので社長もその恐ろしさを知っている。
「最近秋で頭使ってちまちまやってたのでたまにはスカーっと魔法撃ちたいなー、なんて思いま　し　ｔ　・・・」
ヤベェ社長の眼が怖え。
「その・・・何て言うかすいません。」
「はぁ、今回は不問ってことにして処理するから、次からは連絡ぐらいはいれてからにしてくれ。」
「すみません」
「喧嘩の仲裁にしてはやりすぎたと思って居ますが焔ではなくて良かったでしょ？」
「それをやったら大変なのことになっていたでしょうが」
・・・・・

そういう風に絞られて最後は最近のパトロール状況報告で終わったわけですがもうちょっと月でＭＰを派手に使いたい！
ＳＮＳに行って隊長と手合わせしてもらおうか？
いやいやこの暗黒龍スタイルで押しかけたら恐怖でしかないって。
うん。
やめておこう
しょうがないので秋に戻って

ピカァ

眩しいなぁ。
ではＳＮＳ本部に行ってまいります。

## #12　事後通達してみました（後書き）

ストックピンチなので次回以降もしかしたら更新が遅くなります

## #13　戦争の兆候

土曜日pm6：00
カランカラン

「遊びにきま――――」
酒臭っ！
「――――したが大事なようがあった気がするような夢を見た気がするので失礼しま―ふごぅ？！」
「つれねーじゃね～かよぉ～」
ダメだもう完全に出来上がってる。
ガルド、出来上がってる。
その勢いで酒瓶投げるな！それダメージでかいですから！

「みなさーんこの人が本日入ったここの最終兵器　akihaさん通称秋さんでーす」
あれ？隊長、紹介を頼んだ覚えはないんですが？ついでに最終兵器って何？聞いてないよ？
「アンタが最終兵器ねぇ」
ナツキさんあなたも出来上がってますね。
「はぁ…で何やってんですか？」
「うん？秋入会記念宴会。」
「もしかしなくても俺主役？」
一同縦に首を振っている。
「此処に来たのは気まぐれなんだけど…。もし来なかったらどうしていたの？」
「そしたらただの飲み会。」
飲みたいだけなんですね。
「主役＝おまけ？」

「ｙｅｓ」
「・・・」
「・・・」
ココって吹き飛ばしても怒られないよね？
「火系統爆破魔法核爆発（アトミックエクスプロージョン）！」
「っ！それはやめろ！流石にここが持たない！」
「ジョークですよ。パーティーじょーくですって。（笑）」
笑いが止まらない。勿論始めから火系統爆破魔法核爆発（アトミックエクスプロージョン）なんてやる気がない。そもそも秋の魔力で足りるかどうかもわからない様な最上級火系統爆発系魔法をこんな所でぶっ放す程バカじゃない。まぁそれでも実力が測り切れない俺だと本気だとやりかねないと思ったのだろう。必至で止める隊長が面白すぎる。
「はっはっは。いや～皆さん酔いは覚めましたか？でもこれやると俺自身もやばいんでやらないっすよ。」
フヒヒヒサーセン。余りにも扱いがひどいと思ったもんで。
隊長が手招きしてるので外の出ることにした。
「ところでさっきの最終兵器ってどう言う意味ですか？」
「今度敵対クランであるデストロイヤーとのクラン戦があるんだ。是非ともそこから参加して欲しくてね」
なるほど。あそこは運営でも問題となっているのだがそれは運営だけではなかったということか。
早急に手を打たねば。
「とりあえず参加にして置いてください。」
「うん。りょーかい。日程などはまた今度で」
一応報告対象だな。

「さて酒買って戻りますか。」
「そうだね。手ぶらはまずい気がするよ」

## #14　事前訪問した結果がこれだよ！

「そうか我々の対策より先にクラン戦が有ったか。」

「ええ。それもかなりの規模で、ですね。何しろあの要塞＆ａｍｐ；森林フィールドを指定してますから。」

要塞＆ａｍｐ；森林フィールド。それはゲームの使われているゲームエンジンとメモリをフルに使い切るとどうなるの？と言う単純明快且つ短絡的な発想によって作られた文字通り対戦用最大規模マップで有る。
幾つかの要塞とそれらを繋ぐ一本道とその他の森によって構成されている。完全に力比べ用？
行った事が無いので詳しくは分からないが要塞が確保されると（出来ると）地下に要塞と要塞を繋ぐ裏道が自動的に作られるらしい。
面積は・・・・何かもう良くわかんない。
数字がデカ過ぎ。

「で、参加するの？」

「一応ＳＮＳさんから招待を受けまして参加の意向を伝えたのですが改めて聞くとどうも秋じゃ戦力（火力）不足の様でしてどうしようかと言ったところですね。」

「そうすると秋じゃ無くて月でという事に？」

「そうすると今度は第3勢力になってしまいますので・・・」

「うぁーもうどうすんだってーの！」

初老（社長）の男性がこの有様である。（よく言えば）パワフルだなぁ。

「だから困ってここに来たんだけど！」

「はぁもう知らん。あれじゃね？あのー、秋で参加しといてヤバくなったらクイックチェンジでピカーンみたいな？」

フランク！このおっさんメッチャフランク！そして適当！どうでもいいんか！

「なんで疑問系なのかは聞きませんけど。まぁそれでいいや。面倒臭いし。」

「はーいじゃあ解散！早くモンスターハ〇ターの最新作やりたいから！じゃーねー。」

ーーピロリーン

プレイヤー：社長が退室＆amp；ログアウトしました

「本当なんなんだよーーーーー！」

虚しく反響する俺の声しか残らなかった。

## #15　クラン戦準備期間（前書き）

異様に短いので注意してください。
また読まなくても何ら影響が無い様な話しです

## #15　クラン戦準備期間

あのクラン戦には参加（絶対）しなければならないのだが月のおかげで資材・資金・回復薬その他諸々かなり大量に自宅（第２の世界内）に大量に置いてあったりする。
そのため準備その他がいらないのでＳＮＳのクラン集会用喫茶店（？）に入り浸っていた。

「みんな忙しそうだねぇ～」

「そりゃそうでしょ。クラン始まって以来の大勝負なんだからね。」

そうだったね。

「で、いつクラン戦やるんですか？」

「２週間後に要塞＆森林マップでやることになっている。またこの話に連合としてＭＵさんとＴｉｍｅｓｈｉｎｏｂｉさんからＳＮＳ側で戦闘に参加してもらえることになっているが、偵察部隊およびその他情報網によると相手も相当の増援を呼んで準備してるみたいだからね。」

「ちょっとしたお祭り状態ってことですか？」

「それ以上だろうね。このゲーム始まって以来の戦闘、いや戦争だね。」

結構大事じゃねーか

「そうですか。その中心にいる気持ちは？」

「ちょっとデカくなり過ぎたかもね（笑）」

さてと本部（運営）に情報収集しに行きますかね。

「じゃあ準備があるんで俺もこれで」

「ああ。じゃあ次はクラン戦一週間前からのブリーフィングで」

「よろしくお願いします。」

## #16　ちょっとしたブリーフィング（前書き）

この後戦闘開始まで幾らかクッションが入ります。

## #16　ちょっとしたブリーフィング

ＶＲ社ＶＲシステム内本社

「――ってことなんで前々回の通りヤバくなったらすぐ発動！っていうプランで殲滅していきたいと思っています。この作戦だいぶ長引くのではないかと思ってるんですが貸切期間はどれぐらいになっていますか？」

「まさかまさかの無制限！これ本当にどちらかが終わるまでってことだねぇ。」

マジかよ。本当に殲滅作戦に突入じゃねぇか！

「はぁわかりました。それではこちらからは最前線からの定期戦況報告入電、引き換えにそっちからは報告されているすべての情報をリークというのでいいですね？」

「普通社長相手に等価交換迫らないと思うんだけどなぁ」

「うっさい。それと俺これからＳＮＳで最終ブリーフィングあるんで。なんでもこれから1週間かけて作戦を煮詰めるらしいですよって最初の最新情報入電。」

「了解。じゃあブリーフィングも多少は横流ししてくれ。」

「了解（ラジャー）。じゃあ行ってきますよって。」

ＳＮＳ本部事務所兼喫茶店兼酒場

「おっやっと来たか。最後だよ秋君。」

「すみません隊長。」

「まあそんな大幅でもないからいいや。それじゃあ体デストロイヤー連合クラン戦ブリーフィング（殲滅作戦）を開始します。」

「まずフィールドについてですが今回は大きなクラン戦になることが予想されますので相手側との協議の結果、要塞＆森林マップで行うことが決定されました。また最初の位置は両クランともマップの一番端（最も遠い）ところからのスタートということで合意び至りましたのでそこからスタートになります。」

「隊長、今回のブリーフィングには詳細マップを用いないのでしょうか？」

おっガルド意外に鋭いな

「今回のフィールドについての詳細マップは行った事が有るクランが無い事と運営さんからも詳細マップの発行が下りなかったため略図しかありません。」

この件、実は運営も「あれ？詳細マップどこ行ったっけ？っていうか調査結果とか設定資料は？あれ？放置してたから見つかんねー。」ってことが裏で有ったのだ。

「しかも要塞が点在していますが概数でしかわからず抜け道なども全くわかっておりません。要塞の数はおよそ５０。それぞれをつなぐ１本道があることは確かです。そして距離こそありますが相手の要塞は１本道の真正面になります。」

「それってーーーー」

「ーーーーー」

・・・・・・・・・・・・

「それでは今回のブリーフィングは終了とし、各自6日後の大決戦に備えてください。解散！」

わらわらと帰っていくSNSメンバーたち。
残ったのは隊長と俺だけだった。

「ふう。今回は異常なほど早く終わったな。」

「そうなんですか。」

「ああ。秋も当日はきっちり動いてくれよ。これでも結構かなりとても期待しているんだから。」

「期待し過ぎでしょ。作戦がまとまってますから出来るだけその通り動きますって。」

「よろしく頼むよ」

## #17　前夜祭

決戦前夜

「では明日から対デストロイヤークラン戦です。気を引き締めて行きましょう！乾杯！」

何故に前夜祭！？

「いや～士気を高める為？」

読まれた！？そして疑問系って。

「まーゆっくりして行ってね。」

そうするけどね。

相変わらずな出来上がり具合のＳＮＳの皆さん。

酒に強えなぁ。

この辺りもＶＲでフィードバックするから大して強く無い俺だと多分付き合えないわー。

無理無理無理。

「ところで誰が一番強いかやらねーかー」

誰だそんな恐ろしいこと言ってるの。

「おおーいいねー」「負ける気がしねぇ」「ハッ俺っちに勝てるかよ！」「言ったな？やってやろうじゃねぇか！」

おいおい俺無理だってば。さっきから叫んでんだろう。心の中で。

「じゃあ皆さん、チキチキ第１７回誰が一番酒に強いか！大会しますか？」

そんなにやってるの！？驚きというより唖然って感じなんですが。

「先ずは新参者の秋君にやってもしましょうか？」

無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理。絶対、ぜぇったい無理！

「隊長、俺本当酒に弱いんで、」

「じゃあ秋君行ってくれるかな？」

「「「「「「「いいともー！」」」」」」」

何だその某１２時の長寿番組みたいなノリは。

つーか無理だってば。

「できないと言ってるんですｇ」

「一気一気一気一気一気一気一気！」

うっ、何このベターなコールは。

ええーい成る様に成れ！ケ・セラ・セラ！

「一気、いっきまーす！」

某ロボットアニメよろしく宣言し一気飲み。

その後みんなで一気飲みの連続（しかもビール程度じゃ無くて焼酎、日本酒、ブランデー、ｅｔｃ．．．．とにかく無茶苦茶且つ適当且つアルコール高め基本２５％以上）

気が付いたら朝になっており、例のＳＮＳの喫茶店で全員潰れていた。

気持ち悪くはないけど（二日酔いはＶＲ内には無い）何だかね。

一回ログアウトしてもう一度来るとしよう。

## #17　前夜祭（後書き）

後1話クッションです

## #18　準備万端

ぴろーん
ーａｋｉｈａさんがログインしましたー

「よっす。出陣準備中？」

「よ。そういこと。朝起きたらお前いないからボイコットかと思ってびっくりしたぜ」

「一大戦争だから飯食っておきたくてな」

戦闘開始１５分前

「えー皆さんこれから戦場に移動します。作戦を成功させることはとても大切ですがそれ以上に生き残（ＬＶを下げない）る事が最も重要です。絶対に生き残って帰ってきて下さい。
準備ができた奴から移動開始！」

おおー凄えいい事言ってる（気がする）！隊長がいい事言ってるよ。

ぞろぞろと転送装置で戦場へ行くＳＮＳメンバー。今回は全員集合で凡そ７０名。

「こっから先は戦場だ！」

この一言を合図に全員が一斉に転送を開始する。

フッと一瞬視界が真っ暗になった後、とある要塞の内部に集合して

いた。

戦闘開始まで残り5分。

メインウェポンにハイエンドクリスタルソード。サブウェポンにこの前貰った伝説級（レジェンド）ロングソード（両刃）。

死角は無い。

## #１８　準備万端（後書き）

第２の世界のストックが１８話で完全に切れます。受験生で有る為まとまった時間が取れず１９話の戦闘シーン等が全く書けていません。

今まで騙し騙しちょこちょこ書いて来ましたが、時間的に余裕が無く小説に割り振れそうもない為です。

勿論ここで終わるなんていうのは後味悪いどころでは済まない様な状況ですので、余裕があれば更新します。

しかしながら、その余裕と言うものが出来るのが明日なのか来年の春なのか全く分かりません。

読んで下さっている読者の方には私情で更新が止まると言う大変申し訳無いのですが今しばらくそのままで（お気に入り外しなど無く）待っていただければ、と思っております。

今後も当作品をよろしくお願いします。

２０１１／１２／９　水無月　鷹

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6294w/

第2の世界～The Second World～

2011年12月9日00時45分発行